

No.	25-1126	
Project Title	IL-12発現型がん治療ウイルスを用いた悪性黒色腫のウイルス免疫療法開発	
Principal Investigator	Ryuhei Okuyama (Shinshu University・Professor)	
Project Member(s)	IMSUT Host Researcher	Tomoki Todo (The Institute Of Medical Science, The University Of Tokyo・Professor)

東京大学医科学研究所国際共同利用・共同研究拠点事業
共同研究報告書（年次終了・研究完了）【国内】

共同研究報告（年次終了）

新規の癌治療法としてがん治療用ウイルスの開発を進めるため、私たちは Herpes simplex virus type 1 の遺伝子に改変を加えた T-hIL12 の医師主導治験（第 I / II 相）を行っている。東京大学医科学研究所先端がん治療分野で作製された T-hIL12 の臨床ロットを用いて、被験者への投与を実施している。信州大学医学部皮膚科と東京大学医科学研究所先端がん治療分野が情報交換を密に行い、共同で治験を進めた。現在、第 II 相に実施しており、T-hIL12 の安全性とともに有効性に関してデータの集積を進めている。また、抗腫瘍効果の発現メカニズムを明らかにするため、被験者の血液や腫瘍組織等の臨床検体を収集し、協力して解析を進めた。

First in human 試験であり有害事象の発生には特に留意し慎重に治験を進めている。第 II 相では 18 例の組み入れを予定しており、治験実施計画書に基づき 9 例目の結果が得られた時点で独立データモニタリング委員会を開催し、データの間中評価を行なった。さらに中間評価の結果に関して、2025 年 7 月 31 日に東京大学医科学研究所においてプレスリリースを実施したが、NHKをはじめとする複数の報道機関が取り上げ情報発信してくれた。